

## 単元名 ひきざん

児童数：男子7名 女子6名 合計 13名  
授業者：村越 梨紗

## 1 単元の目標

- (1) 知識・技能
  - ・減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。
  - ・減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりしている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
  - ・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

## 2 子供と単元

## (1) 子供について

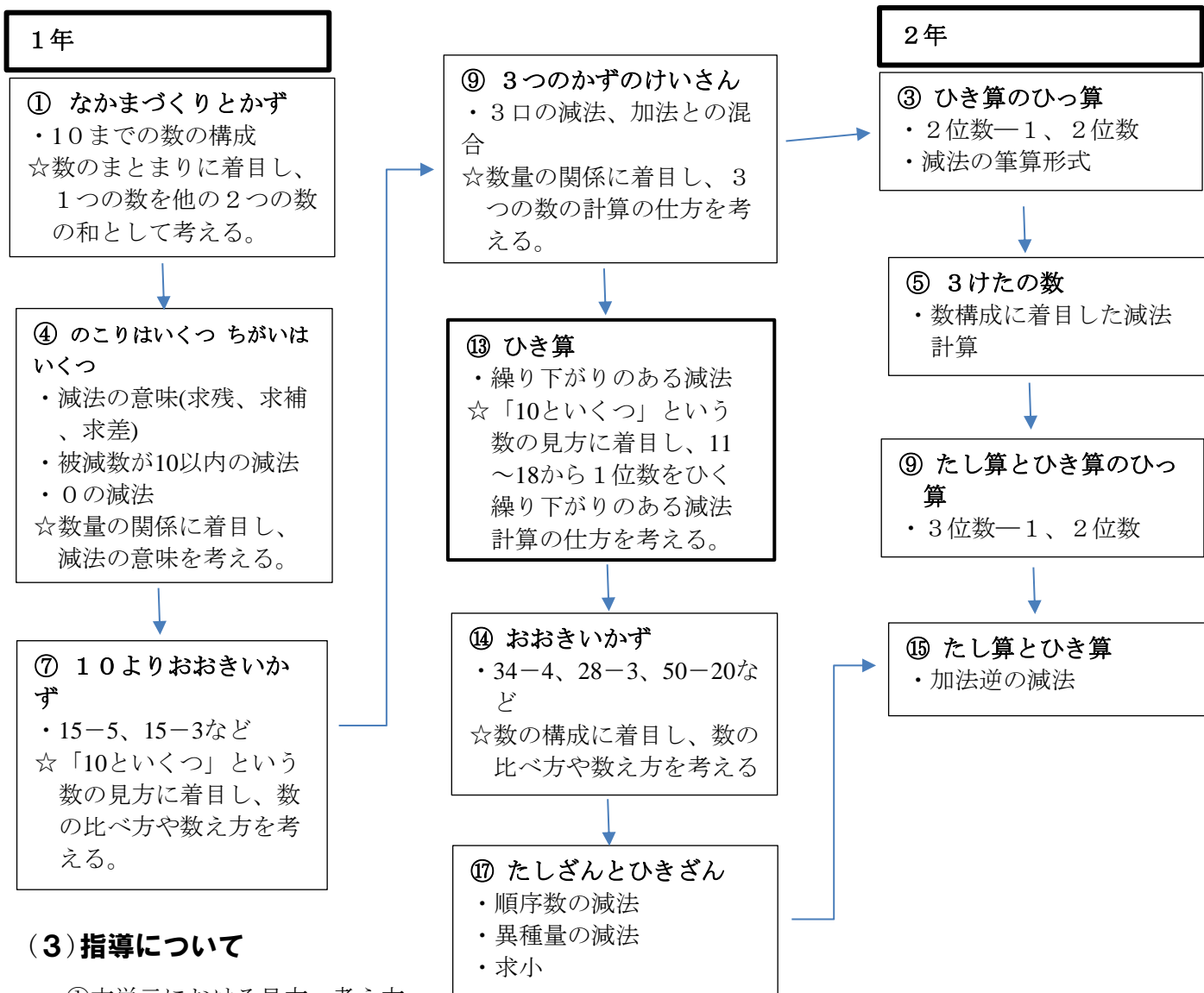
## (2) 単元について

単元の設定理由や教材について【教材観】

第1学年では、加法及び減法の意味を考えたり、加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにし、1位数の加法及び減法の計算が出来るようにすることをねらいとしている。また、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、それを日常生活に生かそうとする態度を養ったりすることをねらいとしている。ここで育成される資質・能力は、第2学年の2位数の加法及び減法などを考える際に生かされるものである。

本単元は、学習指導要領第1学年の内容A数と計算(2)「加法・減法」を受けて設定したものである。この単元で身に付けたい計算方法は、被減数を分解する減加法と減々法の2つである。例えば $12 - 7$ の場合、減加法では $(10 - 7) + 2$ のように10から7を引いて、残り2を加える。減々法は、 $(12 - 2) - 5$ のように順々に引いていく方法である。未習の計算方法を考えるためには、既習事項を意識して考えることが大切だと気付くことができる。また、既習事項を使い考える中で、新たな考えがでたりどの方法が簡単で正確に計算できるか実感できたりする。そして、他の計算を発展的に考えようとする態度を育成することができる。

他学年との系統は次のとおりである。



### (3) 指導について

#### ① 本単元における見方・考え方

「10とあといくつ」という数の見方や計算の意味に着目し、計算の仕方を考える。

#### ② 児童観・教材観を踏まえて、どのように授業を構築するのか【指導観】

(プログラミング的思考力を育むための手立てを含む)

- ・単元を通して、一の位同士が引けない場合、「10のまとまり」を使えば計算できることを理解し、それを自分の言葉で説明することを目標にしていきたい。そのために、ブロックやさくらんぼ図を用いて、理解を深めていく。
- ・導入では、子供たちが生活科見学で拾ってきたドングリを選び、子供たちの興味関心を高める。また、日常生活でも同様の場面に出くわしたときに対応できるように、問題づくりの学習場面を加えることとする。

#### ・本時に関わるプログラミング的思考の流れ

なるべく少ない動作で答えを求める。ロイロノートを使い、一つ一つの動作をコマ撮りしておく。

- ① 一の位が計算できるか ② 引く数と引かれる数のどちらを分解するか ③ 何と何に分解するか
- ④ 何から何を引くか ⑤ 答えをどう見るか

### 3 単元計画（総時数11時間）

時	目標	主な学習活動（○）	指導の要点 【子どもの育ちを支えるためのポイント(●)と評価(□)】
1 2 本時	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロローグ 場面から、減法であることを考え立式する。既習の減法計算を振り返る。</li> <li>○ドングリを題材に、<math>13 - 9</math>を立式する。</li> <li>○<math>13 - 9</math>の計算の仕方をなるべく少ない動作で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活科見学で拾ってきたドングリを使うことで、新しい計算への興味・関心を高める。</li> <li>□既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にした<math>13 - 9</math>の計算の仕方を理解し、その計算ができる。(知・技)</li> <li>□既習の加減計算の学習や数の見方を基に、<math>13 - 9</math>の計算の仕方を考えようとしている。(態)</li> </ul>
すくないどうさで、 $13 - 9$ のけいさんのほうほうをせつめいしよう。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○操作や図を用いて、<math>13 - 9</math>の計算の仕方を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□<math>13 - 9</math>などの計算の仕方を、数の見方を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。(思・判・表)</li> </ul>
3 4	前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○減数が8や7の場合の計算の仕方を考える。</li> <li>○10のまとまりから1位数をひくとよいことについてまとめる。</li> <li>○減数が9～5の場合の練習問題に取り組む。</li> <li>○文章題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□減加法による計算が確実にできる。(知・技)</li> <li>□減法が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数ひいて計算すればよいことを考え、説明している。(思・判・表)</li> </ul>
5 6	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面を読み取り、立式をする。</li> <li>○<math>12 - 3</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>○減数を分解して計算してもよいことを確認し、減々法による計算方法についてまとめる。</li> <li>○自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。</li> <li>○計算練習に取り組む。</li> <li>○文章題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解し、その計算ができる。(知・技)</li> <li>○被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。(思・判・表)</li> </ul>
7 8	計算カードを用い減法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18から1位数をひく繰り下がりのある現法計算の練習をする。</li> <li>○答えが8になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方にふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる(知・技)</li> <li>□計算カードの並び方について、被減数が1増えると減数も1増える、という関数的な見方に気付き、数の関係を説明している。(思・判・表)</li> </ul>

9 10	問題を出したり、問題に答えたりすることで、日常生活でもひき算を使おうと思えるようにする。	○ロイロノートを使い、オリジナルの問題をつくり、式や考え方も書く。 ○問題に答え、計算の方法を説明する。	●オリジナル問題をつくり、答える活動を行うことで、日常生活でも繰り返し下がりのあるひき算をしようとする意識を高める。 □場面にあった問題文をつくることのできる。(思・判・表)
11	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。	○「たしかめよう」に取り組む。	□基本的な問題を解決することができる。(知・技) □単元の学習を活用して問題解決の仕方を考え、説明している。(思・判・表) □単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。(態)

#### 4 本時の実際（本時 2/11）

##### (1) 目標

- 既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にして13-9の計算の仕方を理解し、その計算ができる。(知・技)
- 13-9の計算の仕方を、数の見方(10といくつ)を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。(思・判・表)

##### (2) 展開

時間	学習活動(○) 子供の反応(・)	支援(●)と評価(□)
5分	○前時の復習をする。 ○既習の計算方法との違いを確認する。 ・「10といくつ」で計算できた。 ・「10といくつ」で少しやり方を変えるとできそうな場合もある。  ○本時のめあてを知る	●既習の「10のまとめり」を使うと、未習の計算もできることに着目させ、見通しをもたせる。
	13-9のときかたで いままでとちがうところを 見つけて けいさんしよう	
	○前時に撮った写真を見せたり、ブロックを動かしたりし、考えを共有する。 考えに名前を付ける。 (発表者/ブロック操作) ・1ずつ動かす方法 <u>1ずつひきたし</u> (○○/○○) 【10から】○○、○○、○○、○○、○○ 【3から】○○、○○ ・3ずつ動かす方法 <u>3ずつひきたし</u> (○○/○○) ○○、○○ ・9まとめて動かす方法 <u>まとめてひきたし</u> (○○/○○) ○○、○○、○○、○○	●T1はブロック操作者、T2は発表者につき、動作と式を結びつきやすいようにする。 ●事前にタブレットのロイロノートに自分の考えを提出し、すぐに考えを共有できるようにする。 ●ロイロノートの提出箱機能を使い、電子黒板に提示することで、発表を聞く意識を高める。 ●考えの途中を可視化できるように、黒板ではブロック操作をする。 ●操作の回数が分かるように、その都度、式を板書する。 □13-9の計算の仕方を、操作や図を用いて考え、説明している。【思・判・表】

25分	<p>○自分の考えと似ている考えに名前マグネットを付ける。</p> <p>○3つの考えを比べ、似ているところや違うところを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・13を10と3に分けている。</li> <li>・10から引いている。</li> <li>・途中の式の数が違う。</li> </ul>	<p>●自分の考えがどのように変わるのかわかるように、マグネットで可視化する。</p> <p>●自分の考えと似ているか迷っている場合は、提出箱に提出してある考えを見ながら、みんなで解決していく。</p> <p>□既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にした <math>13 - 9</math> の計算の仕方を理解し、その計算ができる。【知・技】</p>
35分	<p>○本時のまとめをする。</p>	
40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>13 - 9 のようにかんたんにひけないときは、10からひけばけいさんできる。</p> </div> <p>○適応問題に取り組む。12 - 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの考え方で問題を解くか決め、問題に取り組む。</li> <li>・なぜ考え方を変えたのか理由を発表する。</li> </ul>	<p>●考えが変わった理由を聞き、簡単に計算するよさに目を向けることに気付かせる。</p>